

農作物生育・技術情報7号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水稻生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

品種	区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/㎡)	平年との遅速 (日)	成熟期予測 8/15時点
ななつぼし	R7年	93.4	10.8	561.4	+10	8月29日
	平年値	91.1	10.7	515.4		
	差	2.3	0.1	46		
ゆめぴりか	R7年	96.3	11.0	546.9	+7	8月28日
	平年値	88.7	10.9	597.1		
	差	7.6	0.1	-50.2		

(1) 登熟後半の水管理

8月以降も高温が続き、8/15現在でななつぼしの生育は平年より10日早まっています。

土壌が乾燥しすぎると登熟不良の原因となります。収穫の10日前頃までは、土壌表面を極端に乾燥させないように注意しましょう。（水田の適正な水分は、土壌表面に小さな亀裂ができ、少し足跡が付く程度）

2 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・(3月定植)第9～10果房収穫中 (4月定植)第7～8果房収穫中 (5～6月定植)第3～4果房収穫中 ・落花(果)、黄変果が見られる ・すすかび病、灰色かび病、うどんこ病、アザミウマ類の発生が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・少量多かん水を実施する ・強日射時は2重カーテンを下ろして遮光し、果実への直射日光を軽減する ・トマトーンを活用し着果を促す ・老化葉を摘葉し通気性を確保する ・病害虫の定期的な防除を行う
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・整枝、誘引、収穫作業中 ・主茎は20～23節程度まで伸長し、一部ほ場でアザミウマ類の発生が見られる ・8月12日から共選開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・病害は予防を中心に防除を行い、害虫が発生した場合は早期防除に努める ・ハウス内外の除草を徹底する ・主茎の摘芯や側枝の整枝は、一度に行うと樹勢が衰えるので注意する
ハウス軟白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・4月定植収穫中 ・アザミウマ類、ハモグリバエ類が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・アザミウマ類の薬剤防除の際は、同じRACコードの薬剤の連用を避け、ローテーション防除を行う
アスパラガス (ハウス立茎)	<ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病・斑点病の発生が見られる ・暑さによる曲がりや穂先の開きが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハウス内外の除草を徹底する ・斑点病の防除を定期的に行う ・出入口や側窓の解放、適度な整枝を行い、風通しを良くする
いちご	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫中 ・成り疲れの影響で草勢の低下が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・弱小腋芽、古葉、ランナーの摘除、摘果を早めに行う ・ハダニ類、アザミウマ類の防除を行う

3 畑 作

(1) 大 豆【マメシンクイガ】

2回目の防除は、1回目の7～10日後に実施しましょう。

(2) 小 豆【アズキノメイガ、マメノメイガ、灰色かび病、菌核病】

○アズキノメイガ、マメノメイガ:2回目の防除は、1回目の7～10日後に実施しましょう。

○灰色かび病、菌核病:開花期以降に多湿条件となった場合や、過繁茂など風通しの悪い条件では注意が必要です。1回目の防除から7～10日後に2回目を実施しましょう。

(3) てんさい【褐斑病、シロオビノメイガ、ヨトウムシ】

○褐斑病:気温が高い日が続いています。加えて多湿条件では急激に蔓延する可能性があるため、特にこの時期は防除間隔(10日程度の間隔)に留意し、防除を徹底しましょう。

○シロオビノメイガ、ヨトウムシ:高温で経過していることから多発が懸念されます。幼虫による加害状況を確認し防除を徹底してください。

* 詳細については北糖の「てん菜栽培技術情報」を参照ください

4 畜 産

●牧草生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況			平年比 (日)	備考
	項目	R7年	平年		
牧草(2番草)	草丈(cm)	68.4	70.6	-1	生育は平年並だが、一部で高温干ばつのため生育が緩慢

- ①牧草のは種を行う場合は、越冬時の生育確保のためなるべく8月末日まで、遅くとも9月中旬までには終えましょう。
- ②新播草地で雑草が多発した場合は、雑草の草丈が20～30cmになった頃、刈取り高さ10～15cmで掃除刈りを行いましょう。
- ③オーチャードグラスは、8月下旬に施肥すると耐凍性の高い分けつが促進され、越冬性が高まります。

●飼料用とうもろこし生育状況（8月15日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況			生育 期節	平年比 (日)	備考
	項目	R7年	平年			
飼料用 とうもろこし	葉数(枚)	19.8	18.8	乳熟 83%	+8	高温により、登熟は早く進んでいる
	稈長(cm)	326.1	289.1			

・本年は昨年同様、ここまでの気温が非常に高く、生育が早く登熟も進んでいます。収穫時期は、平年より1週間程度早まる可能性があります。今後の気象条件、登熟度合に留意し、早めの収穫準備を心がけましょう。

5 農薬の安全使用

農薬散布は日中の暑い時間帯を避け、朝夕の涼しい時に実施しましょう。
また、一人で長時間の連続・散布作業は避けるようにしましょう。
ドリフトにも十分注意しましょう

